

株主通信

第45期 第2四半期事業報告
平成28年4月1日～平成28年9月30日



連結財務諸表(要旨) 単位:百万円、単位未満切り捨て

四半期連結貸借対照表

科目	期別 当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	前第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
流動資産	14,418	14,417	14,545
固定資産	10,024	10,422	10,156
資産合計	24,442	24,840	24,701
流動負債	2,529	2,591	2,449
固定負債	1,046	1,058	1,028
負債合計	3,575	3,649	3,477
純資産合計	20,866	21,190	21,223
負債純資産合計	24,442	24,840	24,701

四半期連結損益計算書

科目	期別 当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	6,260	5,904
売上総利益	2,054	1,870
販売費及び一般管理費	1,398	1,437
営業利益	656	433
経常利益	666	462
税金等調整前四半期純利益	666	462
親会社株主に帰属する四半期純利益	425	252

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別 当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	854	460
投資活動によるキャッシュ・フロー	△843	△840
財務活動によるキャッシュ・フロー	△122	△77
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,555	2,076

決算のポイント

貸借対照表

当第2四半期末の総資産は24,442百万円となり、前期末から397百万円減少しました。これは主に、建物や機械装置等の減価償却が進み、固定資産が398百万円減少したことによります。

損益計算書

売上高は、自動車や電子機器に搭載する成形品、放送業界向けの光伝送装置等の販売が好調に推移し、前期から355百万円の増加となりました。採算性の良い製品の販売が伸長したため利益率も改善し、四半期純利益は前期から172百万円増加しました。

キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により、854百万円の増加となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは固定資産の取得等により843百万円の減少、財務活動によるキャッシュ・フローは配当金の支払等により122百万円の減少となりました。

通期業績予想の修正(2016年10月21日公表)

当第2四半期までの業績や市場動向を踏まえ、当期の通期業績予想を上方修正しました。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
当初予想	12,500	830	890	470
修正予想	12,500	900	950	550
差異	-	+70	+60	+80

株式の状況

発行済株式総数	9,333,654株
株主数	3,318名

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031
(電話照会先)	取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の 本店および全国各支店で行っております。

株式会社精工技研 管理部

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1

TEL 047-388-6401(直通) FAX 047-388-4477

E-mail ir@seikoh-giken.co.jp WEB http://www.seikoh-giken.co.jp

ごあいさつ

平素は当社に対しまして格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当第2四半期連結累計期間は、期初から為替が円高に推移したものの、電子機器向けの金属プレス成形品の販売が好調に推移し、前年同期比で増収増益となりました。

第3四半期以降は市場の先行きにやや不透明感がありますが、当期から開始した中期経営計画「マスタープラン2016」の実践に取り組み、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

上野 昌利



より詳細な情報については
IRサイトにて決算短信などを
ご覧ください。

<http://www.seikoh-giken.co.jp/>

業績ハイライト

○当第2四半期(累計)の業績

当第2四半期連結累計期間の当社グループは、当期から新たに取り組みを開始した中期経営計画『マスタープラン2016』に基づき、①既存事業の収益力強化、②事業ポートフォリオの最適化、③経営基盤の強化の各施策の遂行に努めました。

①既存事業の収益力強化に向けては、自動車や電子機器等に向けた精密成形品や各種の金型等を主力製品とする精機事業、光通信用部品とその関連機器、光伝送装置等を主力製品とする光製品関連の両セグメントにおいて販売力と価格競争力を強化すると共に、新製品・新技術開発を加速させるための施策を展開しました。②事業ポートフォリオの最適化に向けては、市場のニーズや当社グループの技術的なシーズ、現在の開発案件の推進状況や技術課題等を部門横断で共有し、次代を担う新事業の創出を促す『開発推進会議』を開始しました。③経営基盤の強化に向けては、本年6月に開催した定時株主総会において監査等委員会設置会社へと移行し、株主価値の更なる向上に向けて、取締役会の監督機能を強化する経営体制の構築を図りました。

こうした結果、売上高は、6,260百万円(前年同期比6.0%増)となりました。売上高の増加により、営業利益は656百万円(同51.4%増)、経常利益は666百万円(同44.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は425百万円(同68.5%増)と、増収増益を達成することができました。

売上高



営業利益



精機事業 精密金型/精密成形品/その他



精機関連では、精密成形品の拡販に注力しています。当期は、展示会への出展や当社WEBサイトを通じて成形技術を広くアピールし、引き合いをいただいた顧客との密なコンタクトを図りながら、量産化に向けた技術課題の解消に取り組みました。北海道千歳市に3月に完成した車載用成形品の新工場では、第3四半期以降の出荷開始に向けて量産体制の整備を進めました。これらの結果、当第2四半期の売上高は3,854百万円となりました。



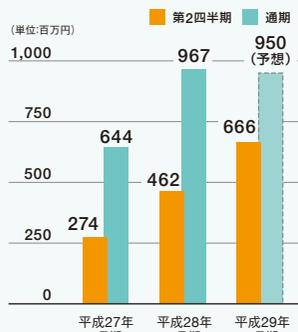
光製品事業 光通信用部品/製造機器・装置/その他



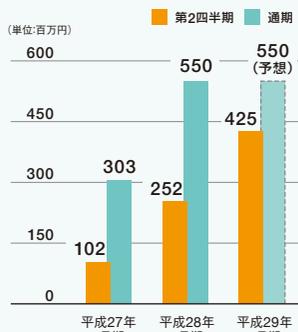
デジタルデータの急激な増加を背景に光通信網の敷設が世界各地で進められており、光通信用部品の需要は拡大が続いています。また、放送関連の顧客向けには、映像電波を光信号に変換する技術を応用した光伝送装置の売上が増加しました。一方、前年同期に好調に推移した高耐熱レンズは、スマートフォンの需要一巡から売上が減少することとなりました。これらの結果、当第2四半期の光製品関連の売上高は2,405百万円となりました。



経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



TOPICS

既存事業の収益力強化への取り組み

中期経営計画 マスタープラン2016

販売力の強化・価格競争力の強化

車載用部品の新工場 稼働開始

当社グループの不二電子工業が北海道千歳市に建設していた新工場が完成し、2016年9月から車載用電装部品の量産を開始しました。2016年度下半期は月産10万個の量産を見込んでいます。2020年度には月産250万個を目指し、生産体制の増強を図っていく計画です。



新規顧客との接点の活性化

国内外の展示会に積極的に出展し、新しいお客様と出会う機会を増やしています。4月6日～8日には東京ビッグサイトで開催された第16回光通信技術展(FOE2016)に出展し、光ファイバーの多芯化に対応するMPOコネクタ研磨機やシャッター付MPOアダプタ等の製品を紹介しました。また、6月22日～24日に東京ビッグサイトで開催された日本ものづくりワールド2016 第20回機械要素技術展では、“超精密金型技術”及び“薄肉・微細転写技術”を活かした加飾成形品等を紹介。自動車関連や光学関連、医療・バイオ関連等、幅広い業界のお客様にご来訪いただきました。



新製品・新技術開発の加速

新型ロードレース中継装置の開発

テレビ中継用に割り当てられた新しい周波数1200MHz及び2300MHzに対応する、新しいロードレース中継装置を開発、リリースしました。ロードレース中継装置は、テレビ中継車のワイヤレスカメラから送られた映像電波をコースの要所に設置した受信装置で受信し、光信号に変換します。光信号に変換した映像電波は市中に張り巡らされた光ファイバーを通して放送局へ。光ファイバーを利用することで、マラソンコースのような長距離でも乱れない鮮明な映像を安定して送ることができるメリットがあります。10月に国内で開催されたプロゴルフツアーのテレビ中継にも当社の装置が使用されました。

